

むかしむかし、ある夫婦がいました。長い間、子どもが欲しい、欲しいと言つて暮らしていましたが、やつと妻の望みがかない、神様が願いを聞いてくださいました。

この夫婦の家の後ろには、小さな窓がありました。そのすぐ向こうに、美しい花や野菜を一面に作った、きれいな庭が見えました。けれども、庭の周りには高い塀があり、その持ち主は、恐ろしい力を持ち、世間から怖がられてゐる魔女でしたから、誰一人、中へ入ろうとする者はいませんでした。

ある日、妻が窓から庭を眺めていると、美しいラプンツェル*が生えそろうた苗床*が目につきました。あんな青々とした、新鮮な菜を食べたら、どんなにいいだろうと思うと、食べたくてたまらなくなりました。それから毎日、菜のことばかり考えていましたが、どんなに欲しがっても食べられないと思うと、病気になる、日に日にやせて、顔色も青くなっていきました。

夫はびっくりして尋ねました。

「お前は、いったいどうしたんだい？」

「ああ、家の後ろの庭にラプンツェルが作つてあるのよ。あれを食べないと、私、死んでしまうわ！」

ことば * ラプンツェル：食べられる葉を持つ植物。ここでは、野菜の名前。

* * 苗床：種をまき、苗を育てるための場所。

夫は妻を大切に思っていたので、心の中で考えました。

「①妻を死なせるくらいなら、どうなってもいい。その菜を取ってきてやろう。」

夫は夜にまぎれて塀を乗り越え、魔女の庭へ入り、大急ぎで菜をひとつかみ抜いてきました。妻はそれでサラダを作り、おいしそうに食べました。けれども、その味が忘れられないほどおいしかったので、翌日には前よりもっと食べたくなり、食べなければ眠れないほどでした。そこで夫は、もう一度取りに行くことになりました。

また日が暮れてから庭へいきましたが、塀を下りると、魔女が目の前に立っていました。夫はぎよつとして、その場に立ちすくみました。魔女は恐ろしい目つきでにらみつけ、言いました。

「どうして、お前は塀を乗り越え、ぬすびとのように私のラプンツェルを取っていくのだ。そんなことをすれば、よいことはないぞ。」

「ああ、どうぞお許してください。好きでこんなことをしたわけではありません。どうしてもそうするしかなかったのです。妻が窓から、あなたのラプンツェルを見て、食べたいたいと思いつめ、死にそうになったのです。」

それを聞くと、魔女は少し機嫌を直して言いました。

「お前の言うことが本当なら、ここにあるラプンツェルを、欲しいだけ持たせてあげるよ。②ただし、妻が産んだ子どもを、私にくれると約束しなくてはいけない。子どもは幸せになるよ。私が母親のように世話をします。」

③夫は心配に氣をとられて、言われるとおりに約束してしまいました。やがて妻が子どもを産むと、魔女が来て、その子に「ラプンツェル」という名前を付け、連れていってしまいました。

もんいち
問一

―①には、夫のどのような気持ちが表示されていますか。一つ選
びましょう。

ア 魔女の許しを得て、安全に菜を取ろうという気持ち。
イ 妻を助けるためなら、危険も引き受けようという気持
ち。

ウ 菜を持ち帰れば、魔女も喜ぶだろうという気持ち。
エ 妻の病気よりも、菜の味を確かめたいという気持ち。

こたえ

もんに
問二

―②で魔女が示したのは、ど
んな条件ですか。何を得る代
わりに何を渡すのかが分かる
ように、五十字以内で書きま
しょう。

もんさん
問三

―③の夫の様子として、本文に合うものを一つ選びまし
う。

ア 子どもを幸せにすると聞き、魔女への恐れがすっかり消
えた。

イ 子どもを渡さずに済む方法を考え、約束するふりをし
た。

ウ 妻と相談して決めたとおりに、魔女の申し出を受け入れ
た。

エ 妻のことが心配で、魔女に言われるままに約束してしま
った。

こたえ

ラプンツェルは、世界に二人といないくらい美しい少女になりました。十二歳になると、魔女は、森の中にある塔にラプンツェルを閉じこめてしまいました。その塔には、はしごも出入り口もなく、てっぺんに小さな窓が一つあるだけでした。魔女は中に入りたとき、塔の下に立ち、大きな声で言うのです。

「ラプンツェルや！ ラプンツェルや！ お前の髪を下げておくれ！」

ラプンツェルには、金をのばしたような、長い美しい髪がありました。魔女の声が聞こえると、すぐに編んだ髪をほどき、窓の折れくぎ*に巻きつけ、四十尺**も下まで垂らします。①魔女は、その髪につかまって登ってくるのです。

二、三年たったある日、この国の王子が、馬に乗って森を通り、塔の下まで来ました。すると塔の中から、何とも言えない美しい歌が聞こえてきたので、王子はじつと立ち止まって聞いていました。それはラプンツェルが、退屈をまぎらわせるために、かわいらしい声で歌っていたのでした。

王子は上へ登ってみたいと思い、塔の入り口を探しましたが、どんなに探しても見つからないので、そのまま帰っていきました。けれども、そのときに聞いた歌が心の奥までしみこんでいたので、②それから毎日、歌を聞きに森へ出かけていきました。

ことば

* 折れくぎ：頭の部分が直角に曲がった、物をかけるためのくぎ。

** 四十尺：約十二メートル。尺は長さの単位。

ある日、王子がまた森へいき、木の後ろに立っている
と、魔女が来て言いました。

「ラプンツェルや！ ラプンツェルや！ お前の髪を下
げておくれ！」

ラプンツェルが編んだ髪を下に垂らすと、魔女はそれ
につかまって登っていききました。

これを見た王子は、心の中で思いました。

「③あれがはしごになって、人が登っていけるなら、私
も試してみよう。」

翌日、日が暮れかかったころ、王子は塔の下へいま
した。

「ラプンツェルや！ ラプンツェルや！ お前の髪を下
げておくれ！」

すると上から髪が下がってきたので、王子は登って
きました。

もんいち
問一

①で、魔女が髪につかま
て登るのは、塔に何がないか
らですか。普通に入入りする
ためのもので、塔にないもの
を二つ書きましょう。

もんに
問二

②で、王子が毎日森へ通つ
たのはなぜですか。歌を聞い
たときの王子の様子をもと
に、五十字以内で書きましょ
う。

もんさん
問三

③のように王子が考えたのは、何を見たからですか。一つ
選びましょう。
ア 魔女が呼びかけると髪が下がり、魔女がそれを登る
様子。
イ 魔女が呼びかけると、塔の下に入り口が開く様子。
ウ ラプンツェルが髪を伝って、塔から下りてくる様子。
エ ラプンツェルが窓から、王子に登るよう手を振る様子。

こたえ

ラプンツェルは、男の人をまだ一度も見たことがなかった。王子が入ってきたのを見て、初めはとても驚きました。けれども王子は優しく話しかけました。一度聞いた歌が深く心にしみこんで、顔を見るまではどうしても気持ちが落ち着かなかった、と話したので、

①ラプンツェルも、やっと安心しました。

それから王子が、妻になつてくれないかと言うと、ラプンツェルは、若く美しい王子を見て、心の中で思いました。

「ゴテル*のおばあさんより、この人の方が、ずっと私を大切にしてくれそうだ。」

そこで、はいと言って、手を握らせました。そして言いました。

「あなたと一緒にいきたいけれど、私には、どうやって下りたらいいか分からないの。ここへいらつしやるたびに、②絹ひもを一本ずつ持ってきてください。私、それではしごを編みます。それが出来上がったら、下へ下りますから、馬に乗せて連れていってください。」

魔女が来るのはたいてい昼間なので、二人はいつも、日が暮れてから会うことにしました。

ことば * ゴテル：魔女の名前。

魔女は少しも気づかずにいいましたが、ある日、ラプンツェルはうっかり魔女に言いました。

「ねえ、ゴテルのおばあさん。どうして、あなたの方が、あの若様**より引き上げるのに骨が折れる****のでしょう。③若様は、ほんの少しの間に登っていらつしやるのに。」

「まあ、このばち当たりが！」

魔女は急に大きな声を上げました。

「何だって？ 私はお前を世間から引き離しておいたつもりだったのに、お前は私をだましたんだね！」

魔女は、ラプンツェルの美しい髪をつかみ、左手にぐるぐる巻きつけると、右手にはさみを持ち、ジョキリ、ジョキリと切りました。見事な編み髪は、床に落ちてしまいました。

それから魔女は、少しも情けをかけずに、かわいそうなラプンツェルを砂漠の真ん中へ連れていき、悲しみと嘆きの中に置き去りにしてしまいました。

ことば ** 若様：ここでは、王子を指す呼び方。

** * 骨が折れる：苦労する。大変な手間や力がある。

もんいち
問一

①までの気持ちの変化と、そのきっかけとして、本文に合うものを一つ選びましょう。

ア 王子を怖がっていたが、魔女の許しがあると聞いて安心した。

イ 初めは安心していましたが、王子に歌の話をされて驚いた。

ウ 初めは驚いたが、王子が優しく訪れた理由を話したので安心した。

エ 初めは怒っていたが、王子がすぐ帰ると約束したので安心した。

こたえ

もんに
問二

②で、ラプンツェルは絹ひもを何に使い、その後どうするつもりでしたか。計画の順序が分かるように、六十字以内で書きましょう。

もんさん
問三

③を聞いた魔女は、思いどおりになつていなかったと知ります。魔女はラプンツェルをどうしておいたつもりでしたか。魔女の言葉から抜き出しましょう。

ラプンツェルを連れていった、その日の夕方、魔女は塔へ引き返しました。切り取ったラプンツェルの編み髪を、窓の折れくぎ*にしっかり結びつけておき、王子が来て、

「ラプンツェルや！ ラプンツェルや！ お前の髪を下げておくれ！」

と言うと、それを下へ垂らしました。王子は登ってきましたが、そこにはラプンツェルの代わりに、魔女がいて、意地の悪い、恐ろしい目でにらんでいました。

「あつは！」と魔女はあざ笑いました。「お前は大切な人を連れにきたのだろうが、①あのきれいな鳥は、もう

巢の中で歌ってはいない。あれは猫がさらっていったよ。今度は、お前の目も引つかくかもしれない。ラプンツェルは、もうお前のものじゃない。お前はもう二度と、あの子に会うことはあるまいよ。」

王子は、あまりの悲しさに取り乱し、前後の考えもなく、塔の上から飛びました。幸い命は助かりましたが、落ちたときに、いばらに引かかり、目が見えなくなっていました。

それから、見えない目で森の中を探り回り、木の根や草の実を食べ、ただ、失った妻のことを考えて、泣いたり、嘆いたりするばかりでした。

ことば * 折れくぎ：頭の部分が直角に曲がった、物をかけるためのくぎ。

王子は、このような姿で何年もの間、あてもなくさまよい歩いた後、とうとうラプンツェルが置き去りにされた砂漠までやってきました。ラプンツェルは、その後、男の子と女の子のふたごを産み、この砂漠で悲しい日々を送っていました。

王子がここまで来ると、どこからか、聞き覚えのある声が耳に入りました。②声のする方へ進んでいくと、ラプンツェルがすぐに王子だと分かり、いきなりその首に抱きついて泣きました。その涙が王子の目に入ると、たちまち両方の目が開き、前と同じようによく見えるようになりました。

そこで王子は、ラプンツェルを連れて国へ帰りました。国の人々は大喜びで二人を迎えました。その後、二人は長い間、仲よく幸せに暮らしました。

それにしても、あの年を取った魔女は、どうなったのでしょうか。③それは、誰も知る者がありません。

もんいち
問一

①は、この場面ではどのようなことを表していますか。一つ選びましょう。

ア 飼っていた鳥が、窓から外へ逃げてしまったこと。

イ ラプンツェルが、塔の中に隠れて歌をやめたこと。

ウ ラプンツェルが、王子を迎えに自分で塔を下りたこと。

エ ラプンツェルが連れ去られ、塔の中にいないこと。

こたえ

もんに
問二

②で、王子が声のする方へ進んだのはなぜですか。そのときの目の状態と、聞こえた声の特徴を含めて、六十字以内で書きましょう。

もんさん
問三

③を含む結末について、本文に合うものを一つ選びましょう。

ア 二人が国へ帰ったことも、魔女が罰を受けたことも書かれていない。

イ 二人の幸せな暮らしは書かれているが、魔女のその後は分からない。

ウ 二人も魔女も、その後どこでどう暮らしたのかは分からない。

エ 二人は国へ帰った後、魔女を探しに出かけたと書かれている。

こたえ

問3

正解：エ

本文のどこを見るか

傍線③の「心配に気をとられて」と、その前の夫の訴え。

考え方

妻を心配する気持ちが強く、言われるままに約束した様子です。子どもの将来を十分に考えて決めたとは書かれていません。

誤答の理由

ア：魔女への恐れが完全に消えたとはありません。
イ：約束を守らない計画はありません。ウ：妻と相談したとは書かれていません。

問2

解答例：妻が産んだ子どもを魔女に渡すと約束すれば、ラプンツェルを欲しいだけもらえると
いう条件。

本文のどこを見るか

傍線②の直前の「欲しいだけ持たせてあげる」と、傍線②。

考え方

もらえるものと、その代わりに渡すものを一つの条件として結び付けます。

採点ポイント

必須：①菜をもらえること、②妻が産んだ子どもを魔女に渡すこと。片方のみは部分理解。「子どもを渡す代わりに菜をもらう」でも可。「子どもを預ける」は返される意味を含むため要確認。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

傍線①と、妻が病気になり、菜を食べないと死んでしまうと訴える場面。

考え方

「どうなってもいい」は、妻を助けるために危険を引き受ける決意を表します。盗みをよい行いと判断する問題ではありません。

誤答の理由

ア：許しを得ず庭へ入っています。ウ：魔女の喜びは考えていません。エ：妻の命を心配した行動で、味への好奇心ではありません。

問3

正解：ア

本文のどこを見るか

魔女の呼びかけ、髪が下がる場面、魔女が登る場面。

考え方

王子は一連の様子を見て、呼びかけて髪を下げてもらえば、自分も登れると考えました。

誤答の理由

イ：入り口は開きません。ウ：ラプンツェルが下りる場面ではありません。エ：王子に合図をしたとは書かれていません。

問2

解答例：美しい歌が心に深く残り、その歌をまた聞きたいと思ったから。

本文のどこを見るか

王子が歌を聞いて立ち止まる場面と、傍線②直前の「心の奥までしみこんでいた」。

考え方

美しい歌に強く心をひかれたことが、毎日通う理由です。入り口が見つからなくても、歌を聞きに戻っています。

採点ポイント

必須：①歌が深く心に残ったこと、②また聞きたいこと。「歌に心をひかれ、聞き続けたかった」も可。「美しい歌だったから」だけは、気持ちとのつながりを補わせます。

問1

正解：はしご／出入り口

本文のどこを見るか

冒頭の「はしごも出入り口もなく」と、傍線①。

考え方

普通に出入りするための設備がなく、高い窓に届く髪を使っています。窓そのものはあります。

採点ポイント

二つとも書ければ正答。順不同。「入り口」「出口」も認めますが、入り口と出口だけの二つでは、はしごが抜けています。折れくぎと髪は、ないものではありません。

問3

正解：世間から引き離しておいたつもりだった

本文のどこを見るか

傍線③に続く、魔女の「私はお前を…」という言葉。

考え方

王子を引き上げた経験が分かる発言から、外の人と会っていたことが知られました。問うのは、魔女がどうしておいたつもりかです。

採点ポイント

「お前を世間から引き離しておいたつもりだった」
「私はお前を…つもりだった」も可。「世間から引き離しておいた」も内容は満たします。「私をだましたんだね」は意図の説明ではありません。

問2

解答例：絹ひもではしごを編み、完成したら塔を下りて、王子の馬に乗せてもらい、一緒にいくつもりだった。

本文のどこを見るか

傍線②の後の「はしごを編みます」から「連れていってください」まで。

考え方

材料、作るもの、塔を出す方法、その後の行動を順に整理します。

採点ポイント

必須：①絹ひもではしごを編む、②完成後に塔を下りる、③王子と一緒にいく。「馬」は省いても可。
①②のみは部分理解。実際にこの計画で脱出したという答えにはしません。

問1

正解：ウ

本文のどこを見るか

冒頭の「初めはとても驚きました」から、傍線①まで。

考え方

初めて男の人を見た驚きが、優しい話しかけと訪れた理由の説明によって、安心に変わっています。

誤答の理由

ア：魔女の許しの話はありません。イ：気持ちの変化が逆です。エ：初めの怒りも、すぐ帰る約束もあります。

問3

正解：イ

本文のどこを見るか

最後の二段落。二人の暮らしと、傍線③。

考え方

本文で説明されていることと、分からないままになっていることを区別します。魔女のその後を想像して正解にはしません。

誤答の理由

ア：魔女が罰を受けたとはありません。ウ：二人は国に帰り、幸せに暮らしたとあります。エ：魔女を探しにいったとはありません。

問2

解答例：目が見えない中で、聞き覚えのある声が聞こえ、その声の主を確かめようとしたから。

本文のどこを見るか

目が見えなくなった場面と、傍線②直前の「聞き覚えのある声」。

考え方

目が見えない状態で、知っている声を手がかりに進みました。目が見えるようになるのは再会し、涙が入った後です。

採点ポイント

必須：①目が見えないこと、②聞き覚えのある声を手がかりにしたこと。「ラプンツェルの声ではないかと思った」も可。片方のみは部分理解。「姿が見えたから」は出来事の順序と矛盾します。

問1

正解：エ

本文のどこを見るか

傍線①と、魔女がラプンツェルを連れていったという冒頭。

考え方

「鳥」はラプンツェル、「巣」は塔に当たります。ここでは、本人がもう塔にいないことをたとえています。

誤答の理由

ア：本物の鳥の話ではありません。イ：塔に隠れてはいません。ウ：自分で王子を迎えに下りたのではなく、連れ去られています。

使い方・出典・教材制作

ラプンツェル／小学5・6年生向け

印刷と使い方

全18ページ。児童用は1～13ページ、解答・解説は14～17ページ、出典・使い方は18ページです。第1回は本文3ページ、他の回は本文2ページ。各回に問題1ページが続きます。A4横向き・片面・実際のサイズ（100%）で印刷します。本文を読む順に上へ並べ、問題をその下に置きます。

問題と採点

各回3問、記述は1問です。全体で選択6問・短答1問・抜き出し1問・記述4問。その回の本文を見ながら解けます。記述は50～60字以内。句読点やかぎ括弧も一字です。上限まで書く必要はありません。解答例と表現が違ってても、採点ポイントを満たせば認めます。

本文の扱い

ご提供の青空文庫本文をもとに、現代表記・一部語句・文の組み立て・段落を小学生向けに整え、ふりがなと注釈を加えました。「辮髪」を「編み髪」などに改めています。出来事の流れと描写を残し、全4回に分けました。原文そのままの掲載ではありません。傍線・設問は教材用です。

読み取りのポイント

行動の理由や条件、計画の順序、心情の変化、たとえを本文から読み取ります。人物の行動を読み解くことと、盗みや他者への危害などをよい行いと認めることは別です。本文にない動機や出来事は正解として求めません。涙で目が見えるようになる場面は、物語の中の出来事として読みます。

作者・作品

作品：『ラプンツェル』
原作者：グリム兄弟
訳者：中島孤島

出典情報

底本：『グリム童話集』富山房
1938（昭和13）年12月12日発行
入力：大久保ゆう
校正：鈴木厚司
2005年3月15日作成
提供ファイルには、旧字・旧仮名を現代表記に改めた旨の注記があります。

出典の確認先

青空文庫
<https://www.aozora.gr.jp/>
本文と書誌・入力校正情報は、ご提供の青空文庫作成ファイルに基づきます。入力・校正・制作は、ボランティアの皆さんによるものです。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン

新しい教材のご案内

新しい名作読解プリントは、【家スタ！】公式アカウントで先行配信しています